

平成30・31年度

第2回 学会・医会協議会 議事録

令和元年11月17日（日）13:00～13:40

於：名古屋国際会議場 3号館3F 「国際会議室」

司会：高橋委員、河合委員

協議会の冒頭に森山会長より挨拶があった。

協議事項

1. 日本臨床耳鼻咽喉科医会について(福興委員)

福興委員より日本臨床耳鼻咽喉科医会の設立に関する現状と今後の予定について以下の説明があった。

- ・本日開催される第1回代議員会に於いて、日本臨床耳鼻咽喉科医会が発足する。
- ・11月12日現在の入会予定者数は、A会員4,641名、B会員2,858名、計7,499名となっているが、会員資格、会員種別などを確認した後、1月に最終確定する予定である。
- ・すべての医会より設立準備金の納入があり、総額3,132万円となった。
- ・第2回代議員会を2020年1月26日に開催し、一般社団法人の役員（ブロック推薦理事8名、選挙選出理事7名、監事2名）の選挙を行う。日耳鼻推薦理事2名については来年5月の日耳鼻新役員決定の後に選任する。
- ・2020年4月12日に設立記念式典、祝賀会を開催する予定で、東京都耳鼻咽喉科医会による実行委員会が準備を行っている。
- ・委員会の構成については、計11の委員会を設置し、そのうち5つは日耳鼻と合同で活動する。委員会の在り方や活動内容などは今後日耳鼻と相談して決定する予定である。

2. 学会・医会協議会の解散ならびに学会・医会連携会議について(森山会長)

学会・医会協議会規約第10条事項に則り、三分の二を超える賛成多数で学会・医会協議会の解散が決議された。

続いて森山会長より学会・医会連携会議規約案について説明があり、賛成多数で承認された。

3. 会員情報新システムについて(高橋委員)

標記システムについて以下のような報告、説明があった。

- ・3年前から準備を開始、今年の1月から関連学会での使用が開始された。7月からは事前登録システムが稼働、11月からは年会費のクレジットカード決済が始まった。

- ・経費は総額 9700 万円程度であり、IC カード収入は 2 千万円、今後導入予定の専門医更新申請システムが 900 万円程度かかる見込みだが、当初の予算内に収まっている。
- ・今後の維持費について、経費が 1500 万円、削減可能な経費が 800 万円、その差額 700 万円が毎年負担となる。しかし削減可能な経費として専門医更新補助費が年間 630 万あるため、毎年 70 万程度の赤字が見込まれる。
- ・年会費のクレジットカード決済を会員に勧めて頂きたい。
- ・今後も日耳鼻会報での会告、ホームページ、説明会などでシステムへの理解、普及に努めていきたい。

4. その他

(1) 突発性難聴、顔面神経麻痺等のステロイド治療における B 型肝炎ウイルス再活性化防止に関する指針について(村上委員)

指針について以下の説明があった。

- ・東京都の日耳鼻会員より、抗がん剤、免疫抑制剤使用例などにおいては B 型肝炎再活性化が話題になっているとの指摘があった。このため、対象疾患を突発性難聴、顔面神経麻痺にして肝臓病学会からの助言をもとに本学会で指針を作成した。この指針は日本医師会雑誌にも掲載される予定である。
- ・B 型肝炎ウイルスの再活性化による劇症肝炎はステロイド中止後、数ヶ月経ってから発症することが知られており、耳鼻咽喉科での診療終了後に発症すること、そして投与量よりも投与期間に依存することを認識することが重要である。このためフローチャートは投与期間 2 週間を区切りにして短期投与と長期投与に分けて作成してある。
- ・患者が受診すると先ず HBs 抗原の測定を行う。通常はステロイド治療を終了してから再活性化が起きるので治療開始時に採血しておけば結果判定が間に合う。クリニックでは HB s 抗原または 2 週間以上連続投与する場合は HBc 抗体、HBs 抗体が陽性だった場合に、基幹病院の肝臓内科へ紹介すべきである。

抗原・抗体の測定の手順についての質問があり、以下の回答がなされた。

- ・HB s 抗原を初診時に測定し、その後、HB s 抗体、HBc 抗体を測定するのが通常の流れである。
- ・ステロイド使用により、抗体価が下がる可能性もあるため、血液をストックしておけば最も良い。

(2) 日耳鼻専門医講習会の名称変更・内容拡大について(村上委員)

来年秋より従来の専門医講習会や夏期講習会を一体化し、日本耳鼻咽喉科学会秋季大会（オータムセミナー）を新たに組織し、運営を開始する。秋季大会では第 34 回日耳鼻専門医講習会、専攻医講習会（第 46 回日耳鼻夏期講習会）、補聴器相談医委嘱のための講習会、第 1 回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッションが行われる。

(3) その他（藤岡委員）

平成 31 年 1 月発行の耳鼻咽喉科学学校保健の動向について冊子を配付したので参考にされたい。